

平成 29 年度愛媛県人口問題総合戦略推進会議の開催結果について

日時：平成 29 年 11 月 6 日（月）14：00～16：00

場所：第二別館 6 階大会議室

○出席者から出された主な意見

◆農業関係

【愛媛県農業協同組合中央会】

- ・柑橘の労働力確保における外国人の活用について、指導・支援いただきたい。
- ・IT、AI の農業分野での活用についてもお知恵をいただきたい。
⇒（知事）
 - ・人手不足を補うため、あの手この手で人の確保をしていきたい。

◆林業関係

【愛媛県森林組合連合会】

- ・新しい就業者の確保が問題。林業先進県の就業条件や福利厚生等を研究し、就業者の定着に向けて改善していきたいので支援をお願いしたい。
- ・今年度から原木の契約販売を開始し、安定的な販売により所得の向上や担い手の確保に繋げたいので、ご支援願いたい。
⇒（知事）
 - ・CLT の工場が西条に作られる。他県に負けないように、リードをする立場で頑張っていきたい。
 - ・大手企業へ県産のタケノコの売込みが成功した。ぜひ生産体制をしっかりと築き上げていただきたい。

◆漁業関係

【愛媛県漁業協同組合連合会】

- ・浜の活性化に向け、自ら考え実践し、市町等とも一体となった取組みを進めていきたい。
⇒（知事）
 - ・漁業者の安定的な収入確保や後継者の育成をサポートするため、漁協の体質強化をお願いしたい。

◆商業関係

【愛媛県商工会議所連合会】

- ・留学生就職促進プログラムを通じて、留学生の定着に向けた取り組みに大学と連携して進めたい。
- ・企業の生産性向上に向けた IoT や AI の導入を支援していく。

【愛媛県商工会連合会】

- ・後継者不足の中で、贈与税、相続税の問題、承継負担の課題も多く、難しい問題だが、行政によるきめ細かい支援をお願いしたい。

【愛媛経済同友会】

- ・県には、経産省の地方版 IoT 推進ラボの活用、四国総合通信局との ICT 利活用、IT 分野に取り組む専門学校への助成制度の充実に取り組んでいただけるとありがたい。
- ・ふるさとのために貢献したい若手リーダーがおり、愛媛で働く人や企業へのアドバイザーとして、また仕事のスキル向上の指導者として、学生など若者の教育者として関わっていただけるような関係性ができないか。
- ・e 移住ネットの利便性の向上やリンク先の拡充をお願いしたい。

⇒ (知事)

- ・事業承継についても、税の関係は国に対して現場目線で強く要請を続けていただきたい。
- ・企業誘致をする際、誘致企業に適した人材をどう確保するかが一番のテーマで特に大学での人材養成とリンクする取組みがあれば、より一層企業を誘致しやすい環境になる。
- ・地域産業の活性化に結び付けるAIの活用については、経済団体も同じような形で研究プロジェクトを発足してリンクしていくと、より一層効率的ではないか。

◆大学関係

【愛媛大学】

- ・愛媛大学の学生の県外出身者が6割強となっており、その8割が卒業時に県外へ出ていってしまっているため、県外出身者を対象に地域定着特別奨学金という制度を作った。

【松山大学】

- ・県内出身者が7割を超えており、その6割が県内企業に就職。
- ・国からの補助金で、私立大学改革総合支援がある。来年はぜひチャレンジしたいと思っており、行政や企業団体関係者に協力をお願いしたい。

⇒ (知事)

- ・県内就職を増やしていくためには、魅力的な企業が県内にあるということを学生が知っているかどうかにかかっている。
- ・愛媛県は起業化率が非常に低く、これは大きな課題であると思っている。ぜひ、チャレンジ魂のある若い学生の育成を意識していただきたい。
- ・先般、チェジュ航空のソウル便が就航したが、愛媛県は、全国的に見てもパスポートの取得率が低く、とりわけ、若者のパスポート取得率が低いので呼びかけをお願いしたい。

◆市長会、町村会

【愛媛県市長会】

- ・企業の持つ底力は、非常に大きなものがあるので、企業にさらに頑張ってもらおう。東京を中心とした大企業だけではなく、地方にあっても頑張っている元気な企業を育成したい。
- ・サイクリングに特化した取組みをさらに充実して、愛媛マルゴト自転車道も愛南から四国中央まで機運をさらに盛り上げて、特に若者に向けて発信したい。

【愛媛県町村会】

- ・若者が大学等を卒業しても働くところがないということで、地元に戻って来ず、人口減少に拍車をかけており、結果として後継者不足となっている。
- ・儲かる水産業、農業があれば、若者でもやりたいと思うので、行政として環境を整えることが必要。

⇒ (知事)

- ・人口が減少したことによって使われていない、遊休施設を有効活用して欲しい。
- ・国体で、スポーツの魅力が広く全般に浸透した。それぞれの市町、得意な種目で磨き込んでいくことが、子ども達の育成、中学高校の人材確保にもつながると思うので、ぜひ考えていただきたい。
- ・愛媛県においても、来年、組織改革でスポーツについて徹底的に振興策に踏み込んでいきたい。

◆金融関係

【伊予銀行】

- ・若者が地元の産業や企業を知らない。これは、我々銀行の責任でもあり、もっと発信する必要がある。

らと思っている。県のジョブチャレンジU-15のような事業を地域全体で取り組む必要があるという問題意識を持っている。

- ・人口減少で、空き家等の問題が出てくる。それと地元就職、地元定着、移住とリンクさせて、一つの政策的なものを進めていく協力体制も必要ではないかと思っている。

【愛媛銀行】

- ・第一次産業の取組みとして、新たなビジネスモデルの育成支援や六次産業化の支援に取り組んでいる。現在では愛媛県産品を東京の取引先に販売したいということで県の営業本部と協力し準備をしている。
- ・教育については、大学の講義で、地元の優れた経営者を講師に迎え、自社の理念やこだわり等を発表いただき、学生の地元就職に役に立てている。

【愛媛県信用農業同組合連合会】

- ・親元就農助成、新規就農助成をおこなっている。また、新規就農者、研修者を受け入れる研修所等への助成を行っている。農業者を受け入れる研修先であれば、どこでも助成をするので、ぜひ利用して欲しい。
- ・今年度から新たに果樹機械のリース代の4割を助成する制度を実施している。新規就農、担い手育成、移住定住の一助になると考えている。

⇒ (知事)

- ・愛媛県の魅力を知らない若者が多いという現実があり、金融機関には、次代を担う若者にその存在をPRする役割も担っていただきたい。
- ・モノづくり産業の中にも福利厚生という観点が広がっていけば、定着にもつながる。
- ・特に後継者がいないという声は聞こえてくるが、収益を上げていても、儲かっていると決して言わないため、なかなか後継者が振り向いてくれない。業として成り立っている所で、若者、後継者に体験等をさせたら、効果的な就農者増につながっていくのではないかと。

◆福祉関係

【愛媛県社会福祉協議会】

- ・社内に福祉に特化した無料で職業を紹介する福祉人材センターを設けている。この人材センターのスタッフを首都圏や関西圏などの福祉関係の養成校に行かせ、情報を提供して、地元回帰を促している。
- ・福祉・介護関係で合同の入職式を実施し、新任の職員間でのネットワークを構築して職場への定着率の向上を図っている。

⇒ (知事)

- ・今年、えひめ大会で多くの学生達に関わり、関心も高まり、チャンスではないかと思う。そういった人材に対して、大学等を通じて例年とは違った呼びかけをしたらいいのではないかと感じた。
- ・各施設若者だけのBBQ大会、婚活パーティー、運動会など、自分はこの施設の代表なんだといった意識を持って楽しむ場があれば定着に繋がる気がする。

◆子育て関係

【愛媛県保育協議会】

- ・保育料を無料にし、子育て世代が支出したお金を愛媛県で全部吸い上げる方法として、保育園に毎日、市を出し、愛媛県産のものなら何を売ってもいいことにする。
- ・愛媛という名前を売り込むために、10mの望遠鏡を作り、その望遠鏡「愛媛望遠鏡」という名前を

つけてはどうか。

【愛媛県幼稚園連合会】

- ・幼稚園教諭として、Uターンで帰ってくる事はあまりない状況。やはり都会との賃金の格差が大きくなるので、そこを少し改善できると良いかなと思う。
- ・幼児教育の無償化については、早期実現に向けて積極的に検討いただけたら助かる。

【愛媛県PTA連合会】

- ・PTA連合会が昨年度から健康危機管理勉強会を実施している。中身は性教育や食の話、SNSの話。
- ・20年後・30年後、子どもたちが健康な子供を産めるように、性教育・食育を通じて、我々がいかにか育てるかということにかかっていると思う。

⇒ (知事)

- ・負担軽減の話については、県の財源が豊富ではないので、知恵を絞りながら、やらなければならない課題である。自治体にも倒産がある時代になっており、絶対倒産させるわけにはいかない。そういう中で、費用と負担とサービスを考えて展開していかなければならない。
- ・本来は義務教育に係る支出費用については全国一律であるべきだと思う。知事会でも議論しているところ。
- ・子育てには、学校と地域と家庭の連携が重要。また、食育は非常に大事で、親も含めて浸透させていく必要があるのではないかな。

◆男女参画関係

【えひめ女性財団】

- ・働き方改革というのは、男性も女性も、そして障がい者の方も働き続けられる職場づくりで、業種によって違うとは思いますが、トップや管理職世代の意識改革の重要性というのを、女性の立場として強く痛感している。
- ・今後、働く人々が抱える介護の問題が発生してくる。介護だけでなく、自身の病気等により制限がある方も働き続けられる環境が福利厚生で整備されている企業や業種のみが生き延びていけるのではないかな。
- ・ファミリーサポートの需要を把握し、それに対応できるような施策を実施するために、ファミリーサポートの需要を調査していただきたい。
- ・男性が子育て・介護を共にやっていたら社会づくりが非常に重要。

⇒ (知事)

- ・愛媛県は、実は共働き率が低く、割と専業主婦の方が多いため、県民所得は低く出るが生活費自体が他県に比べると安い。ただ、働ける場所があれば働きたいという人は年々増えおり、そこを企業の人材確保という視点で考えれば、伸びしろがかなりある。
- ・男性の育児・家事の参加が高い世帯ほど、出生率が高いので、人口減少にとって男性の育児・家事参加は鍵を握っている。
- ・介護人材は不足しており、日本人だけでは絶対的な人数が不足し、外国人に頼るしかない。ところが、日本の資格試験制度に問題があり、日本で働く際に必要な資格試験が日本語で実施されている。現場では、知識とコミュニケーションをとれる日本語力があれば十分なため、試験を多言語で行う仕組みを整えるよう国に働きかけたい。
- ・ファミリーサポートセンターについては、高齢者の生きがいづくりにも繋がっていくと思う。